

青梅市社会教育委員会 3月定例会会議録

平成27年3月17日

201 会議室

出席者 委員10名

事務局 3名

1 開 会

【議長】今、吉野梅郷で花祭りを開催している。ウィルスの関係で梅を伐採したため、観光協会や地域で別の花を植えて集客を図っている。花以外にも吉川英治記念館などがあるので、ぜひお出かけいただきたい。

【事務局】市長の市政方針の中では、第5次生涯学習推進計画にもとづき生涯学習を推進すること、放課後子供教室を9校から10校に拡大することにふれていた。今週は予算委員会だが、予算についてはほぼ例年同様に計上している。

2 報告事項

(1) 平成26年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・拡大役員会会議要点録について (報告資料1)

【事務局】議長と事務局で出席した。事務局より要点録が送付されてきたので報告する。内容については後で確認してほしい。

(2) 平成26年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3回役員会・拡大役員会会議要点録について (報告資料2)

【事務局】議長と事務局で出席した。事務局より要点録が送付されてきたので報告する。内容については後で確認してほしい。

(3) 平成26年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第4回役員会会議要点録について (報告資料3)

【事務局】役員会のため青梅市は出席していないが要点録が送付されてきたので報告する。内容としては来年度の統一テーマや、27年度の定期総会などである。

(4) 第57回全国社会教育研究大会大分大会の分科会における実践事例発表レポートについて (報告資料4)

【事務局】来年度の全国社会教育研究大会の分科会で発表するレポート募集の依頼がきた。分科会についてはそれぞれテーマがあり、各テーマに沿った取り組みをされた場合には応募してほしいとの内容であった。青梅市では特に該当がないと思われるため、依頼がきたことを報告する。

【議長】来年度については全国大会へ参加する予定はない。参考となる事柄も書かれているのでお目通し願いたい。

(5) 青梅市社会教育委員会議 2 月定例会会議録について (報告資料 5)
【事務局】修正等あれば 3 月末までに連絡願いたい。

(6) 平成 27 年度社会教育事業 (案) について (報告資料 6)
【事務局】社会教育課の事業について報告。基本的には例年どおりの講座を継続して実施する予定である。変わっている点としては、子ども体験塾は、来年度はロボットワールドということでロボットに関する講座を開く予定である。子ども体験塾は市長会の補助金をもらっている青梅市、羽村市、福生市の 3 市合同で実施している事業である。放課後子ども教室については、今井小を 1 校増やして 10 校で実施する。予算の関係で回数が減っている講座もあるが概ね例年どおり実施する予定である。

【議長】子ども体験塾の開催場所はどこか。

【事務局】ワークショップについてはそれぞれの市で行い、講演会は羽村市のゆとろぎで行う予定である。

【議長】ロボットは生活の中には入り込んできている。

【事務局】講師については東京大学の教授で R O B I やエボルタなどを作った人が候補にあがっている。集客につながるようなインパクトのある内容でやっていきたい。

【議長】佐藤財団の共催事業は、内容についても佐藤財団の関係者と一緒に決めるのか。

【事務局】内容については社会教育課で企画し、佐藤財団に了承してもらい実施している。佐藤財団の理念からして、市内に住んでいる小学生に体験させるのが目的である。そういった観点から考えていく予定である。

【議長】車椅子バスケットの講演会があったが、来年度はスポーツ関係の講師を招いた講演会はないのか。

【事務局】来年度は補助金がなくなったので予定はない。

【議長】各事業でアンケートは取っているのか。

【事務局】参加者にアンケートを行っており、次回の講座の企画に生かしている。

(7) 今年度を振り返って (派遣委員報告等)

【議長】派遣委員は報告願いたい。

【委員】先々週に公募展「ビエンナーレ O M E 2 0 1 5」の表彰式があった。一般の方が公募展に出品するのは難しいが回を重ねるごとに出品が多くなってきて、見ごたえも出てきたので今後も継続していきたい。

【議長】美術館の事業に委員が関わることはあるのか。

【委員】明星大学の収蔵所蔵名品展が 6 月の初旬から 7 月にかけて行う。テーマは近代、新しいものについて並べる。例えばバウハウスというドイツのバウハウス運動から生まれたような椅子や、かなり貴重なものも収蔵している。

ジョセフ・アルバースという画家であり教育者である人の作品を明星大学の元教員にレクチャーしてもらい、大人向けの講座と子供向けの講座を企画している。また、ポスター等が出来たら配布したい。

【委員】前回の定例会でも協議したが、放課後子ども総合プランという学童保育と放課後子ども教室を一体化したものを少しずつ進めていこうと行っている。学童保育は有料だったり、時間の問題やスタッフの問題や場所の問題があるが、少しずつ始めていく予定で話し合いをしている。

参加している子どもの視点で考えると、子ども同士と一緒に活動できるのでいい面もあり、今現在も一体型のようにやっているところもある。

【議長】学童保育は家庭の中の生活がメインで、放課後子ども教室は遊びや勉強がメインであり意味合いが違うが、一体にする場合には両方の要素を取り入れるのか、どちらかに絞るのかどちらなのか。

【事務局】放課後子ども教室は放課後の一定の時間、子どもの活動場所を提供するもの、学童保育は生活の場を提供するものである。参加するにしても学童保育のカリキュラムの一環として、一定の時間だけ放課後子ども教室に参加するというスタンスである。それも一体として捉えられる。

【議長】実験的に実施し、それを全体に広げる流れか。

【事務局】27年度は月1回程度行って検証しながら、28年度には週に1回行う予定である。

【委員】27年度に計画がない学校について、行っていないのは場所の確保の問題であるか。

【事務局】教育委員会として年に1校か2校ずつ増やしていくという考えがある。来年度やらない学校は何か理由があって出来ないということではない。話を持っていけば出来るところもあると思うが、スタッフの確保や準備の問題もあり、そういったところも考慮しながら1校か2校ずつ増やしていく予定である。

【委員】理解できるが、ニーズはないのか。どうしてないのかという声があがってきてもおかしくない。場所がないということであれば理解を得られると思うが、スタッフが集められないという理由では理解が得られないのではないか。スタッフの確保については市だけでやることではないし、地元でもやらなければならない。やっていない学校の保護者から声を聞いたりしているのか。

【事務局】保護者の方の声については、昨年、学校とPTAにアンケート調査を実施し、その辺も踏まえて新規に行う学校の選定を行っている。学校側の意見として現状のままだと開設は難しいというものや、PTAの意見として、希望しないと回答しているところもある。設置を希望しているところもある。そういった意見を加味したうえで設置校の選定を行っている。

【事務局】意向を聞きながら好感触のところをあたっており、来年度は今井小になった。他の未実施校については、いずれは全校実施でお願いしますと話をしているので、1校ずつでも着実に進めていきたいと考えている。余裕教室がないところについても、今井小は校庭と体育館だけでスタートする。出来る範

囲で進めていきたい。

【委員】生涯学習市民会議委員として現在新緑祭に向けて準備をしている。新緑祭については、今まで市で用意していたものを各団体で用意することとなり、実施出来なくなったものもある。よくなるようにしていきたいが、そのようになっていない部分もある。生涯学習市民会議では企画講座をやっているが、回数が多くなり盛んになってきた。青梅市は無料の講座が多いが、内容をアップして今後は参加にもお金を負担してもらって講座をやりたい。子育てや福祉、スポーツ推進課などと重複する内容も出てくるので整理が必要であるかもしれない。

スポーツ審議会の方はお金の配分をどのようにしたらよいかというところと、全国大会に出ている人たちに1回は交通費を出しているが、2回目の人は優勝しても交通費が出ていない場合もある。そういった部分をスポーツ審議会で検討している。来年度は規約が変わる予定である。

【議長】市の講座で参加費を取るの大丈夫か。材料であれば大丈夫だと思うが。

【事務局】実費負担であれば問題ない。料理教室等で材料を負担してもらっているのはあるが、それ以外の参加者が負担しているものはない。

【委員】今も明星大学の青梅校で生涯教育をやっているが、材料費プラス受講料を取っている。

【委員】内容が伴わないと無理であるが少しずつでも有料の講座を行うようにしていければと思っている。

【委員】影絵はどうなったか。

【事務局】6月中旬の開催で進めている。

【委員】影絵については生涯学習市民会議で佐藤財団に依頼し、援助してもらったこととなった。このようにいろんなところとタイアップできるといい。

【議長】図書館の運営委員をしているが、管理運営のあり方検討委員会でこれからの図書館の管理運営を指定管理に移行することを話し合っている。佐賀県武雄市の図書館では、TUTAYAを運営している業者が指定管理者として管理運営を行っている。指定管理にするメリットとしては経費の削減や、業者の持っているノウハウをサービスとして取り入れることができる点である。指定管理にすることで開館時間の延長や、休館日が少なくなるなどが期待されている。

中央図書館に近い東青梅と河辺の市民センターにある図書館については廃止し、子育て支援のスペースにする方向で話合いが持たれている。

(8) その他

3 協議事項

- (1) 平成27年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会の開催について
(協議資料1)

ア 日 時 平成27年4月18日（土）午後2時
イ 場 所 秋川キララホール
ウ 出席者 議長、委員7名、随行事務局2名

【事務局】4月18日に定期総会があり、内容については表彰や決算報告、来年度の事業計画等の議事や講演会である。本日出欠を確認したい。

（2）その他

4 その他

【事務局】配布資料について説明。

【議長】コンサートや講座などがあるので興味のある方は参加してほしい。

【委員】3月11日に調布市の社会教育フォーラムに参加したので報告する。演劇は市民をオーディションしてキャストを決めた大掛かりなものであり、シャドーボクシングという演劇を通して、加害者や弱いものへのサポートの視点や、思春期の子供の主張、家庭内でのコミュニケーションなどさまざまなテーマが盛り込まれていた。鼎談の中では、家庭教育へのサポートが社会教育でも必要であるとの話があった。

【議長】演劇の内容はどうであったか。

【委員】社会教育委員でアンケートを取って、今何が必要か、どう市民と接点をもっていけばいいかという視点で作られたものである。実際演劇をした子供は、実際そういう性格ではないのにいじめ役をやってみて、ただ強いだけではなくそうせざるを得ない気持ちがわかったという意見や、いじめっ子の役をやった人がいじめられ役の人の気持ちが痛いほどわかったという意見もあった。役を演じて初めて理解できることや、役で自己実現をしてみたいという気持ちなど、市民にどういった働きかけが出来るかという視点で構成されていた。家庭教育が今脆弱であるので、社会教育で家庭教育のサポートをできないかとの問題提起があった。

【議長】車椅子バスケットの講演の感想はあるか。

【委員】体験を通して話されて、車いすバスケットのルールや新しい発見があった。とてもわかりやすくいい話をされており、子供達に聞かせたらよいと感じた。体験された人と会ったが、とてもよかったと話していた。

【委員】障害の程度に応じてチームの構成が違うなど初めて知った。車いす同士のぶつかり合いなど迫力があつた。

次回定例会 平成27年4月21日（火）